

「ふくしまの家」復興住宅供給システム プロポーザルの概要と今後の取組

平成24年3月
福島県土木部建築指導課
佐々木 和弘

1

①福島県の被害状況

②県公募による仮設住宅建設概要

③復興住宅供給システムプロポーザル
概要と今後の取組

2

①福島県の被害状況

(平成24年3月8日現在)

◇最高震度	6強	
◇人的被害	死者	1,993人
	その他	235人
◇住家被害	全壊	20,154棟
	半壊	65,330棟
	一部破損	148,184棟

3

②県公募による仮設住宅建設概要

◇経緯

○応急仮設住宅を県内に1万6千戸建設することを計画

○災害協定に基づきプレハブ建築協会へ要請

→しかし、被災3県の要請が膨大であり、
供給に時間がかかることが判明

○県内事業者から協力できる体制があるので、
活用願いたいと要望あり

→6千戸について、県内事業者を対象に公募を実施

応急仮設住宅の
早期完成

地域産業の
活用、活性化

林業、製材業、設計、工務店の
連携体制の確立

◇応急仮設住宅建設件数 16,226戸
うち、公募木造仮設住宅 5,722戸

復興住宅供給に
繋げる

4

②県公募による仮設住宅建設概要

施工:日本ログハウス協会東北支部
場所:本宮市



内外装、構造、断熱材に「ログシェル材」を採用し、内・外部共にぬくもりのある空間を実現している。

5

②県公募による仮設住宅建設概要

施工:福島県建設業協会
場所:いわき市

主要な構造要素である落し板をパネル化する「板倉工法」により、施工時や解体時の施工合理化を図っている。



6

② 県公募による仮設住宅建設概要

施工：三春町復興住宅つくる会
場所：三春町



コンクリートべた基礎、外断熱通気工法の採用など、温熱環境の向上に努めている。

7

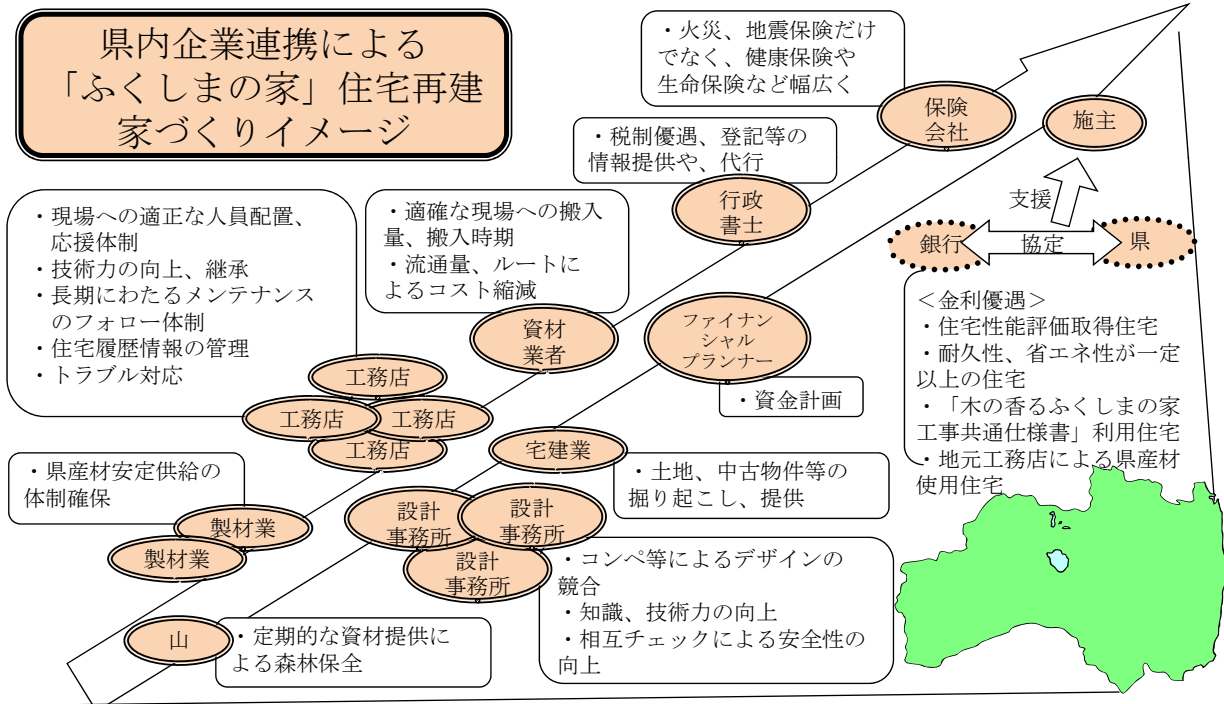
③ 復興住宅供給システムプロポーザル概要と今後の取組

◇ 目的

被災者が良質で低価格な木造住宅をスピーディに取得できるよう、県内の林業、製材業、工務店、設計事務所等が連携した「ふくしまらしい住まいづくり」を支援

8

③復興住宅供給システムプロポーザル 概要と今後の取組



③復興住宅供給システムプロポーザル 概要と今後の取組

◇募集要件

①「県内で事務所登録している建築設計事務所」、「県内に本社がある建設業登録事業者」及び「県内の木材業者等登録している県産材・地域材の供給を担う林業・木材産業に携わる事業者」ほか、それぞれ1社以上参画している団体とし、単体事業者のみでの参加は不可。

②提供する住宅の性能、保証体制を明確に示せる団体

③定款又は会則等が定められている団体及び新たに連携される団体にあっては簡単な会則等(名称・目的・事業内容・構成員・代表者・事務局等)が定められている団体であること。

③復興住宅供給システムプロポーザル 概要と今後の取組

◇事業スケジュール

H23.12～
H24.01 提案募集期間(56団体の応募)

H24.01 第一次審査会(33団体を選定)

広報対象団体

H24.02 第二次審査会(8団体を選定)

実施設計等委託候補団体

11

③復興住宅供給システムプロポーザル 概要と今後の取組

◇審査項目

- ①住宅建設関連分野が合理的に連携した供給システム
- ②長期にわたり実現可能な連携体制、供給計画の実現性
- ③『復興住宅のコンセプト』に合致
- ④品質等の担保、住宅情報履歴の整備
- ⑤県産材・地域材等を積極的に活用
- ⑥各種申請手続きを代行できる連携体制
- ⑦景観や地域風土との調和に配慮
- ⑧復興住宅促進に波及効果のある先導的な取り組み
- ⑨原子力事故及び風評被害への対処手法等
- ⑩再生可能エネルギー等の積極的な活用

12

③復興住宅供給システムプロポーザル 概要と今後の取組

◇今後の方針

①被災者個人の住宅再建への周知

- 仮設住宅集会所等への訪問
- 住宅フェアの開催

②災害公営住宅建設に活用

- 市町村、UR機構等への広報

③地域型住宅ブランド化事業の積極的活用

- 長期優良住宅等の勉強会開催

15

「ふくしまの家」復興住宅供給システム プロポーザルの概要と今後の取組

ご静聴ありがとうございました

16